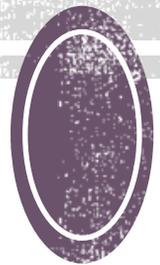




MixRainbow 参加者インタビュー No.1

第1回MixRainbow参加者 常盤 成紀さん





MixRainbow参加者インタビュー 実施にあたって

こんにちは、MixRainbow みのりです。

世の中にはLGBTに対していろいろな受け止め方をしている人がいるということは分かっていても、実際どうなの？ というところはなかなか知る機会がありませんよね？

そこで、MixRainbowの活動では、参加者の皆さんの、LGBTに対する思い、気持ち、受け止め方をお伺いするインタビューを順次、実施していきます。

今後、様々な立場の方にインタビューをさせていただく予定ですが、このインタビューを読んだ皆さんが、こんな受け止め方、考え方があるんだという気づきを得られ、視野を広げていただければいいなと思います。

今回インタビューをお願いした、常盤成紀さんは、常盤さんが主催するオーケストラ「アミーキティア管弦楽団」に、私、みのりが参加したことがきっかけで知り合い、今回のMixRainbowへも参加していただけることとなりました。

常盤さんは、管弦楽団だけでなく、様々なコミュニティの運営を手がけられ、**日々の活動の中でいろいろな方に出会い、つながりをつくっています。**

そこで、このように視野が広い活動をされる常盤さんに、今回MixRainbowに参加された感想と、LGBTについてのおはなしを日頃私たちが気づくことのない視点からお伺いすることができました。



今回お話を伺う方：



常盤 成紀さん

1990年大阪府堺市生まれ。株式会社紀陽銀行、大阪大学大学院法学研究科博士後期課程を経て、現在アミーキティア管弦楽団代表、京都市地域おこし協力隊、フリーワークショップデザイナー。京都市最北端に広がる里山地域「京北」に住みながら、京都を中心に関西各地でコンサート制作、アートワークショップ企画、地域プロジェクトの運営サポート、中高生キャリア支援、執筆などの活動をしている。

インタビューした人：

MixRainbow みのり
Pride-Project Masa

今回のインタビューは、みのりと、
プライドプロジェクト代表のMasaさんとおはなしをお伺いしました。



みのり：

こんにちは、今回はMixRainbowに参加いただきありがとうございました。

常盤さんに参加いただいた上に、実施後アンケートにも、インタビューにもお答えいただけると記載いただき、とても楽しみにしておりました。

それでは早速なのですが、今回MixRainbowに参加しようと思ったきっかけを教えてくださいませんか？



常盤：

みのりさんからMixRainbowのFacebookグループに招待いただいていた、興味はありました。ずっと、当事者の方と、その人が当事者だという前提でお話してみたいと思っていました。なかなかそういう機会はないので。

みのり：

今回MixRainbowへの参加されたということは、常盤さんは、「ALLY」（理解者、支援者）という形で参加されたという認識をお持ちという事で良いですか？



常盤：

はい。しかし自分をALLYと言うには、まだ勉強が必要だと思っています。ただその前に、「**ALLY**」という言葉が独特だなと感じました。恥ずかしながら最近まで、この言葉は知らなかったのですが、初めて聞いたとき、サポーターでも、フレンドでもなく、「**ALLY**」という言葉を使っていることがいろんな意味で引っかかりました。

それは、「**ALLY**」の元の言葉、Alliance(※)が軍隊的な言葉で、「戦う」というニュアンスがあり、「FRIENDS/フレンド」などと言わずにALLYと言うところに、ある種の特異さを感じました。

※ Alliance=(相互利益の為などの) 同盟 (を結ぶこと)、同盟関係、縁組み
(引用：Weblio英和辞書)

常盤：

一般に「つながり」を表現するとき、フレンドやコミュニティという言葉が日本ではよく使われるのですが、LGBTの場合「ALLY」という言葉が使われていることは、LGBTの歴史を考えればよく理解できます。

ただ、その言葉の持つニュアンスの強さが、今はまだ関心を持ち始めたばかりの人たちには伝わりづらいかもしれず、また、人によってはぎょっとするかもしれません。

みのり：

確かにそうですね。この言葉の強さがある意味で壁になるかもしれません。これには、1969年にニューヨークで起こった暴動（ストーンウォール事件）をきっかけとして、自分たちの権利を「勝ち取る」ということで、ネガティブな体制側に対抗するという意味合いとしての「**ALLY**」という言葉が使われるようになった歴史が関係していると思います。



Masa :

「LGBT」も、「ALLY」も、その言葉が日本においては外国からの輸入という事が前提にあります。

ストーンウォール事件において、最初は黒人問題と絡められながら、キング牧師のサポーターとして、そばに居たのがLGBTの権利団体であったという流れもあるのかなと思います。

アメリカの政治的な一派のサポーターは、彼ら自身をPatriot（愛国者）と呼んでいるのですが、そういう感覚で、一緒に戦っていくという意味合いから、「ALLY」という言葉が来ていると感じます。

それに対して日本では、アメリカのように人権活動をおこしながら、自らの権利を獲得していくという文化ではなく、コミュニティ意識が強い文化ですから、そこが違和感を感じる根源にあるのかなと思います。

常盤 :

とてもよくわかります。決して「ALLY」という言葉が悪いというのではなく、「ALLY」という言葉をこのコミュニティに参加することで知ったときに、歴史的な意味も含めて、何かを察したという感じです。これが、良くも悪くも日本や世界におけるLGBTの現状なのかなと思いました。

みのり :

確かにそうですね。色々示唆に富んだおはなしをいただけてうれしいです。

常盤 :

多くの、僕のような当事者でない人が、LGBTの人たちに対して、日常生活でどの様に接して良いか判らない、どの様な言葉だと失礼にならないのかなど、LGBTの活動に共感をしていても、ボキャブラリーがないためになかなか接することができない点が多かったので、まさかここまで、当事者の方からいろんな事を話してもらえるととはと、ありがたく感じました。

みのり :

確かに、このようなテーマでは、触れてはいけない点がないかとか、ボキャブラリーを気にしてしまうという方が多いと思います。今回参加されて、他の皆様が話されていることで、何か気になった話題ががありますか？



常盤：

どちらかというと、Allyの方の話した言葉が残っています。どなたかが、「自分が話していることがもしかしたら、地雷を踏んでいるのではないかと不安だったころがある」と話されていました。当事者の方の話でも、初めてコミュニティに参加するのは勇気が要ったが、参加してみたらすごく世界が変わったと話されていました。これと同じ事が、Allyの側にも起こっているのではないかと思います。実際参加してみると、話してはいけない内容がないと感じ、むしろ、情報交換ができる場所が多く、私にも多くの収穫がありました。

みのり：

よかったです。そのように、皆さんの意識が変わっていくと良いなと思います。日常生活では今でも、昔からこうなっているから、特に使わないけど、とりあえず書類に男女別欄を設ける、みたいなことが多いんですね。これに関して、尼崎市が昨年、不要な欄を一斉に洗い出して削除できたという話があります。当事者側からすると、こういうことがどこまで受け入れられるのかという点で不安がまだまだ多いと思います。そういう不安が減っていけば良いですね。

常盤：

「前からこうだから変えない」という制度的な話と、LGBTという概念自体を受け入れられるかという話は、二本が重なりながら走っています。まずは制度として変化の実績を増やしていくしか無いと思います。今の尼崎市の例の様に、性別欄が殆ど無くせましたというような、制度的な実績をどんどん増やしていき、こちらがスタンダードであるという風に持って行くのが一定程度の効果を持つと思います。

みのり：

今現在、LGBTが受けられていこうとしている、過渡期においては、まさにそういう積み重ねが大事なかなと思います。

常盤：

なかなかこうした話題に理解をいただけない方にしても、それはその人たちなりの信念や人生経験から来ているものであるもので、言葉を尽くしたところで一朝一夕には変わってもらえるものではないと思います。もちろん、だから理解されなくても仕方ないなんてことはないですけども。しかし、だからこそ、今やれることとして、制度的なところから実効的に変えていくことが大切なのかなって思います。それと対話とは、どちらも必要なことです。

みのり：

そしてその結果、当事者の人たちが身近にいることが当たり前になってくると、少しずつ理解が広まっていくのかなと思います。



～こんな活動をしてみては？提案～

みのり：

それでは、最後に、今回MixRainbowに参加されて、今後こんな活動をしてみては？みたいなご提案はありますか？

常盤：

LGBT当事者でない、かつコミュニティの運営を普段している僕としては、具体的なケーススタディをしたいと思います。
例えば、オーケストラでの、楽屋の更衣室や市役所のトイレのあり方などについて、色んな立場の方と話してみたいです。

みのり/Masa：

確かにそれは盛り上がりそうですね。

本日は、長時間、貴重なおはなしを聞かせていただき、ありがとうございました。また今後もよろしければご参加をお願いします。

インタビューを終えて：

インタビューでは、今回掲載のお話以外にも本当にたくさんのお話をいただきました。本当は全てを掲載したいのですが、あまりにもボリュームが多くなってしまいますので、その中でも印象に残った内容について掲載させていただきました。

私たち当事者が、これまで当然に様に使っていた言葉ひとつにとっても、視点が変わることで、なぜその言葉が今使われているのかという事を再認識をすることができ、これまでのLGBTに関する多くの先人たちの苦勞が読み取れ、とても有意義な時間となりました。

今後も、様々な視点の方のお話を聞きながら、MixRainbowの活動に反映できればと思います。

～Fin～

